そくおよび早朝にもっとも多く聞かれた。とくに、つがいによるデュエットおよび数つがいによるコーラスは、夕方おそくに聞くことが多かった。また夜半に、塒で休息中の幼鳥1羽と木の上にとまっていた成鳥羽を観察し、幼鳥の羽色について記載した。—— Mark BRAZIL (酪農学園大学)。

ナミエヤマガラの一腹卵数

樋口広芳・長谷川雅美

ナミエヤマガラ *Parus varius namiyei* は、伊豆諸島の利島、新島、神津島に生息するヤマガラの1亜種である。この鳥の生態についてはこれまでほとんど報告がなく、繁殖生態はまったく調べられていない。筆者らは神津島で巣箱を架設し、一腹卵数について調査したので、ここにその結果を報告する。

巣箱は1975-1978年に島の北部地域に毎年20個、1984年に北部と南部に合わせて52個架設した。架設地域は主に照葉樹林の林縁であったが、一部の巣箱はスギの造林地や二次林内に架設した。巣箱の巡回は、毎年4月中旬から5月中旬にかけて3、4回行なった。これらの調査により、初卵日やふ化日などは正確に知ることはできなかったが、一腹卵数については確かめることができた。巣箱を利用している種がヤマガラであるということは、抱卵中または育雛中の親鳥を見ることによって確認した。

この調査期間中に架設した巣箱の数は延べ132個になるが、そのうちヤマガラが繁殖に利用したの

Fig. 1. The frequency distribution of clutch size of Varied Tits *Parus varius* on Kohzu-shima island.

Table 1. Comparison of clutch asizes between three subspecies of Varied Tits *P. varius*. Statistical tests are shown below.

Subspecies	Study area	N	Clutch size	
			Range	Mean $\pm$ S.D.
<i>P. v. varius</i>	Izu Pen., mainland	85	3-8	6.26 $\pm$ 0.82 ¹
<i>P. v. namiyei</i>	Kohzu-shima, Izu Is.	19	4-8	5.37 $\pm$ 1.01
<i>P. v. owstoni</i>	Miyake-jima Izu Is.	77	3-6	3.95 $\pm$ 0.76 ¹
		Mann-Whitney U	z	Significance level (one-tailed)
<i>P. v. varius</i> vs. <i>P. v. namiyei</i>		369	-3.928	P < 0.001
<i>P. v. namiyei</i> vs. <i>P. v. owstoni</i>		185.5	-5.411	P < 0.001

¹ Calculated from HIGUCHI (1981).

は、全部で 19 個 (14.4%) だけだった。Fig. 1 は、この 19 例に基づいて一腹卵数の頻度分布を示したものである。最も多く見られた一腹卵数は 5 個で、次いで 6 個、4 個の例が多く、平均は 5.4 個だった。

ヤマガラの一腹卵数はこれまで伊豆半島や伊豆諸島三宅島で調べられている (HIGUCHI, 1976; 樋口, 1981)。それらと比較してみると、神津島のナミエヤマガラの一腹卵数は、三宅島にすむオーストンヤマガラ *P. v. owstoni* のそれより有意に多く、本土にすむヤマガラ *P. v. varius* のそれより有意に少ない (Table 1)。

ナミエヤマガラの分布域は上記 2 地域の中間にあり、この鳥の羽色や体の大きさは、その両地域にすむヤマガラの中間である。一腹卵数のような生態形質もやはり中間であるということは興味深い。

調査を行なうにあたっては、東邦大学理学部の細井衛、松原健司、西山芳則、大高寛之、清水高男の諸氏に手伝っていただいた。厚くお礼申し上げたい。本研究の一部は、トヨタ財団の科学研究費補助金を受けて行なった。

引用文献. HIGUCHI, H., 1976. Comparative study on the breeding of mainland and island subspecies of the Varied Tit, *Parus varius*. *Tori*, 25: 11-20. 樋口広芳, 1981. おみくじ引きをする鳥の生態。無名のものたちの世界, 4: 3-28. 東京, 思索社。

Clutch Size of the Varied Tit *Parus varius* on Kohzu-shima Island. The clutch size of Varied Tits on Kohzu-shima (34° 15'N, 139° 10'E) in the Izu Islands was investigated using nestboxes. The mean $\pm$ S.D. of clutch size was 5.37 ± 1.01 . Clutch sizes were found to be intermediate between, and significantly different from, those of the Honshu mainland population and Miyake-jima island (the next island south of Kohzu-shima) population.—Hiro Yoshi HIGUCHI and Masami HASEGAWA (Laboratory of Forest Zoology, Faculty of Agriculture, The University of Tokyo, Bunkyo-ku, Tokyo 113; Department of Biology, Faculty of Science, Tokyo Metropolitan University, Setagaya-ku, Tokyo 158).